

IAUD Newsletter vol.5 第18号 (2013年2月号) 目次

1. 協同事業検討委員会 照葉 UD ワークショップ開催報告・・・1
2. IAUD アワード 2012 受賞紹介⑤・・・10
3. 2012 年度 IAUD 成果報告会&定例セミナーのご案内・・・14
4. 第2回 UD 検定・初級講習会&検定試験 実施のご案内・・・14
5. スペイン UD 通信・・・15

未来に伝え続ける UD

特集：協同事業検討委員会「照葉 UD ワークショップ」開催報告

協同事業検討委員会は UD の普及啓発を目的に、2012年8月から12月にかけて、福岡市立照葉小学校（福岡市アイランドシティ）の生徒を対象に、「照葉ユニバーサルデザインワークショップ」を実施しました。期間中は UD をテーマにした授業を3回と1回の社会見学、さらには教職員向けの研修会を2回行いました。

今号の Newsletter は、同委員会の日谷潔氏にこのワークショップの開催報告をしていただきます。

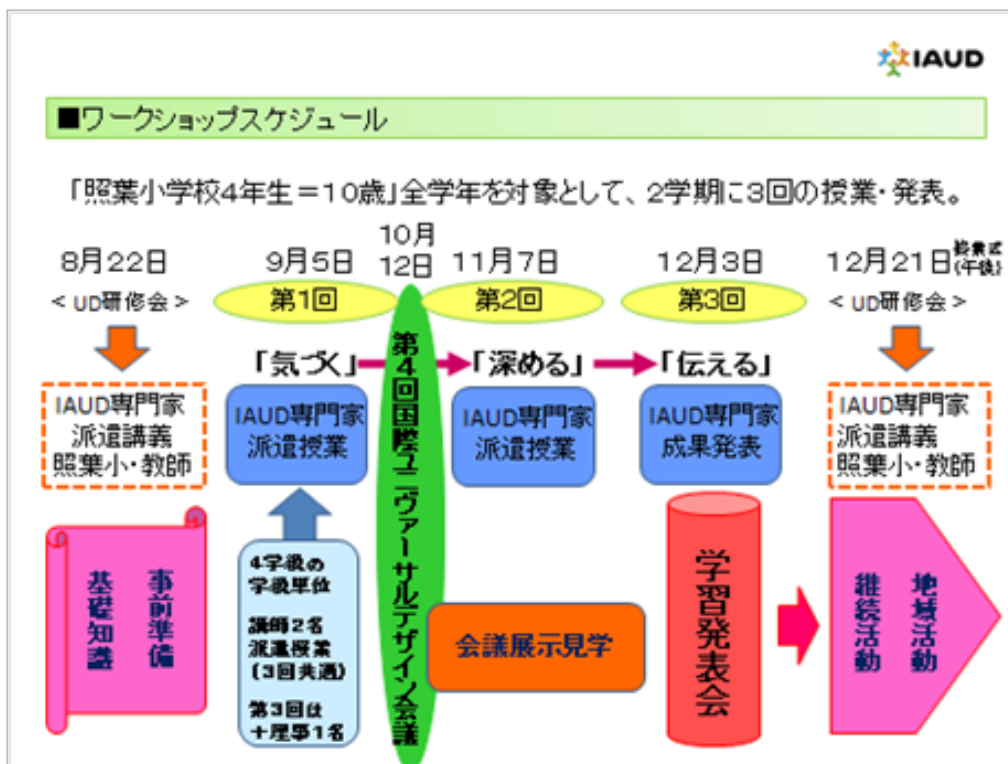
未来に繋がる具体的な行動に



福岡市立照葉小中学校

「照葉 UD ワークショップ」は照葉小学校の4年生（4学級、全128名）を対象にしました。小学校4年生は学齢が10歳です。ここをスタートとして、例えば80歳になるまでの70年間にわたって、UDの考えや大切さを伝え続けて、大人へと成長していき、さらには未来に繋がる具体的な行動を起こしていくことを狙いとしました。

2012年8月22日の教職員向け研修会をはじめとして、3回の授業と1回の社会見学会、2回の教職員向け研修会を行いました。派遣講師は、IAUD 協同事業検討委員会 WS 担当委員の細山雅一（細山 UD-Unit 代表）と日谷潔（パッション アンド ウィル代表）。4学級の学級単位で担当講師は2名体制、各学級の習熟度を測りながら専任で指導しました。



同校は小中連携教育校で、「研究開発実践校」としてより教育効果を高めるための研究開発を行い、その成果をほかの学校に活かしています。

ワークショップの教育目標は、照葉小学校の「心を照らし、人を照らし、未来を照らす」ことを基本として、福岡市内のモデル事例となる「未来に伝える発表」を目標としました。

教育目標：発表することを目標として、さらに将来に亘り継続的な学習へ
平成24年度（初年度1年目）の獲得目標は「気づく、深める、伝える」。

■照葉小中学校教職員向け研修会

2012年8月22日（水）10：00 - 12：00

授業を開始する前に、同小中学校教職員約30名を対象に研修会を開催し、最終確認及び打ち合わせを行いました。

まずは樋口綾子校長より「『第4回国際UD会議2012in福岡』の開催誘致に合わせて、一緒に授業をする学校の募集があり、本校でも検討し、今年度は4年生の総合学習として、UDの授業を行うことになりました」とのご挨拶がありました。

その後、派遣講師より講習を実施しました。



細山 雅一・講習
「子供たちに伝えたいUD」

日谷 潔・講習
「未来に伝え続けたいみらいの授業」

■第1回授業：「UDについて学ぶ」＝「気づく」

2012年9月5日（水）10：25 - 12：00／13：45 - 15：20

毎日の生活の中にある不便なこと

⇒「段差、障害物など」の気づき。自分だけではない「多様な人の存在を知る」。

UDとは何か？なぜ大切なのか？をDVDや班ごと（各班4名、計8班）で体験をすることで学び、「気づきを得る」ことを第1回目授業の獲得目標に置きました。



<教材>

- ① トヨタ自動車㈱：「ユニバーサルデザインってなんだろう」冊子
- ② 福岡市：「ユニバーサル都市・福岡って何だろう？」
⇒この2冊は生徒全員に用意して、配布。家庭での報告、保護者と共に自宅学習につながりました。
- ③ DVD：「みんな一緒 - 雅士くんの1学期 -」「見えない世界聴こえない世界」

<授業内容>

講師の自己紹介及びUDについての説明及びDVD視聴の後、「高齢者や障がい者になったらどんなことが起きるの？」をテーマに、班ごとに体験学習をしました。



- ①見えなくなる；アイマスク
- ②聴こえづらくなる；耳栓
- ③足腰が曲がらなくなる；膝サポーター
- ④手先の感覚が鈍く（にぶく）なる；軍手

<宿題>

発見UIワークショップ 発見UIワークショップ 発見UIワークショップ		
不便だと思ったところ		
工夫されていると思ったところ		
その他感じたところ		
氏名	組	番

←①「不便だと思ったところ」

←②「工夫されていると思ったところ」

←③「その他感じたところ」

①②③の3つの「気づき」を左のシートに記入しました。

<まとめ>

多様な人の存在を知る。私たちの周りにはいろいろな身体的な特性を持った人がいます。そのことにしっかりと目を向け、同じ人間（仲間）としてどう楽しく快適に暮らすかを考えることがUD。

■社会見学会

2012年10月12日（金）13：45 - 14：55

「第4回国際UD会議2012in福岡」内で開催された福岡国際センターでの展示会場を見学しました。第1回の授業を受けて、実際にさまざまな取り組みを見学して、気づきを得ていくことがねらいです。

社会見学のレポートは、宿題のシートに各自まとめていき、「深める」授業へ繋げていきます。



さらに、「第4回国際UD会議2012in福岡」の展示会場において、協同事業検討委員会の取り組みをパネル展示しました。照葉UDワークショップの今後のスケジュール及び8月22日に実施された福岡市立照葉小中学校・研修会について掲載し、来場者の方々にご覧いただきました。

<まとめ>

日常の生活で親しみのある企業や組織の取り組みが展示されていて、UD について実際に見て感じる、良い機会となりました。

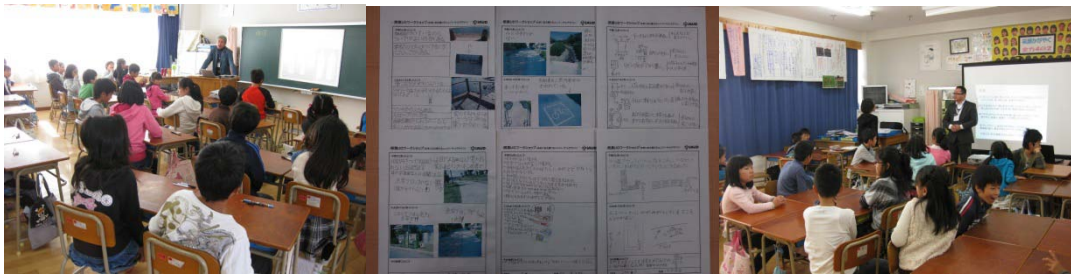
また、提出されたレポートにはすべてに眼を通し、児童の理解や興味関心とともに疑問点も把握した上で今後の授業へとまとめました。

■第2回授業：「UD について話す」＝「深める」

2012年11月7日（水）10：25 - 12：00／13：45 - 15：20

実際に体験・体感してみる。

⇒「こうすると良くなる」改善点。「一緒にどうするかを考えて、より良くする」。



第1回授業、社会見学をもとにまとめた「不便だと思ったところ」「工夫されていると思ったところ」「その他感じたところ」から班ごとでのテーマ設定と、12月の学習発表内容に「深める」ことを第2回目授業の獲得目標に置きました。

<授業内容>

「不便だと思ったところ」（一部紹介）

- ・目の不自由な人の不便さ⇒点字ブロックが無い、音声の出ない信号機、手すりが無い、段差がある、点字表示がない、大きい道路は点字ブロックがあるが、小さい道には無い。
- ・車椅子やベビーバギーの不便さ⇒段差がある、道がデコボコ、車椅子用トイレがない、看板が高くて見にくい。
- ・ドアが重い（玄関、リビング、窓、引きとびらなど）。
- ・位置が高い（手が届かない、インターホン、タオルかけ、水道のじゃぐち）。
- ・横断歩道の信号（照葉の信号は音が鳴らない（市街地と住宅地の違い））。

⇒大人では気づかない児童の視点で、新しい気づきや学びが確認できました。

「工夫されていると思ったところ」（一部紹介）

- ・段差をなくしている（玄関・床、スロープ、エレベーター（両側にドア）がある）。
- ・手すりがある（トイレ、階段、お風呂など、高いところ・低いところにもある）。
- ・幅が広がっている（ドア、ろうか、トイレ、道路など）。
- ・点字ブロックがある（中央公園、点字ブロックに進め・止まれの2種類）。
- ・点字がある（エレベーター、自動販売機、オートロック、携帯電話、リモコン）。
- ・家の中のいろいろなものに点字がある（リモコン、洗濯機、ウォシュレットなど）。

⇒UDをより身近な事として捉える姿勢できたことの確認ができました。

「その他感じたこと」(一部紹介)

- ・点字ブロックの上に自転車が置いてある(黄色のブロックの上に自転車を止めないでほしい)。
- ・点字ブロックも切れているところがある。
- ・点字ブロックが無いところはどこやっているのだろうか。
- ・デジタルは使いやすいけど、お年寄りには使いにくい。

さらに、未来(将来)につながっていく感想・意見もありました。

- ・世の中にはいろいろ体の不自由な人がいると分かった。
- ・みんな障がいを持っている人の気持ちになって、たくさん工夫している。
- ・工夫されているところもたくさんあるけど、不便なところもたくさんあって、「すごく快適」ではない。
- ・私が見つけた以外でも良いところ、悪いところがあると思うので、これからも見つけていきたいです。
- ・UDは人のことを考え、誰にでも過ごしやすい環境をつくるために頑張っていますね。

<まとめ>

第1回授業では「UDって、何?」と何も知らない児童も多く、そこからのスタートでしたが、第1回授業、社会見学、校内学習発表会での個々の意識が深まっていることがわかります。身の回りのことから地域や社会のことまで、児童の気づきや学習がぐんぐん進んでいることを実感しました。

自分と違う多様な人間がいることの気づき、障がいを持った人が一緒に生活している。特定の誰かのためというだけでなく、どうしたら良いかお互いが一緒に考えること。小学4年生だからこそ、ものごとの分別もわかり、様々なことへの関心が高まる時に、UDの視点を持って、これからの未来づくりへ。

<教材>



交通エコロジー・モビリティ財団・小学生向けプログラム冊子を配布
「冊子：交通バリアフリーからともに生きる社会を学ぼう！」
⇒授業終了後に児童に配布し、学習発表内容の参考資料として活用。

■第3回授業：「UDについて発表」＝「伝える」

2012年12月3日(月) 13:30 - 14:15

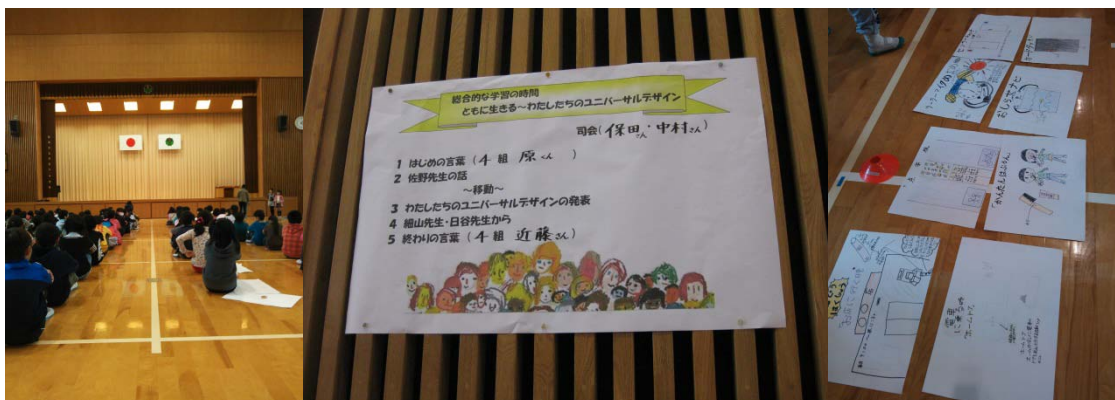
「未来につながる“成果発表”」。

⇒特定の誰かのためでなく、「ともに生きる」。「自分の言葉でUDを語る、伝える」。

「総合的な学習の時間；ともに生きる～わたしたちのUD」として学習発表会を実施しました。全員が各班に分かれて発表し、児童と保護者、講師が聴いて総評コメントをしました。

緊張の面持ちもありましたが、全員が発表し、質問することでお互いの理解を深めていき、しっかり「伝える」ことができました。内容の密度の濃さに驚き、感動の発表会でした。

また、保護者も発表会を参観することで、「ともに生きる」という考えと行動が家庭でも続いていくことに繋がりました。



発表会の風景・進行スケジュール表・発表用シート

<わたしたちのUD 発表> (発表会の一部紹介)



<細山・日谷から講評>

発表内容の素晴らしさを称え、これから生きていく 10 歳の児童にメッセージとエールを送りました。



<まとめ>

第3回授業「伝える」はとても素晴らしい発表内容になりました。

小学4年生ならではの視点も随所に見られ、手が届かない、重くて何もできないということなども発表されました。大人では気づかなくなっているようなことが改めて発表されることに、気づきと喜びを感じました。

また、デジタル世代であることから、電子ツールを使ったものの発表も多く、ナビやパネルモニターなどの対応も盛り込まれていました。これからの時代を力強く生き抜いていくという期待感も感じることができました。

「特定の誰かのために何かをしてあげる」というのではなく、「自分と違う多様な人間がいることの気づき、障がいを持った人も一緒に生活していること」をしっかりと理解しています。

「ともに生きる～わたしたちのUD」の発表の一つ一つが「未来に伝え続けるUD」になります。小学4年生の時からUDの視点を持ち続けて、これからの未来づくりへ。とても大きな成果が得られた学習発表会となりました。

■照葉小中学校教職員向け研修会

2012年12月21日（金）14:30 - 15:30

同小中学校教職員約45名を対象に研修会を開催し、全体報告及び成果と課題を報告しました。また、4年生担当の先生及び原教頭先生よりお言葉をいただきました。



日谷 潔・「全体の報告」

細山雅一・「成果と課題」

<成果>

- ・第1回授業<UDの「気づき」を得る>
⇒多様な人の存在と不便さに気づく姿勢が出来ました。
- ・社会見学会<UDの展示会見学>
⇒専門的なUDの知識の増加が図れました。
- ・第2回授業<UDを「深める」>
⇒UDを身近な事として捉える姿勢が出来ました。
- ・第3回授業<UDを「伝える」>
⇒UDを自分の言葉で語れる姿勢が出来つつあります。

<課題>

- ・子供たちの気付きをどう学校や家庭で醸成させるのか？
日常的な疑問や気付きに対応していただきたい。
保護者の理解も必要なので、配布した資料などで知識の共有化も図っていただきたい。
- ・日常の中で、多様性や人権も含めた教えを進めていただきたい。
障がい者や高齢者を「かわいそう」と見るのではなく、同じ立場で考えられる人への育成が必要です。
- ・次年度の4年生にも同様の授業を照葉小学校主体で進めていただきたい。
- ・共に心地よく楽しく暮らせる社会がUD。

さらに、小学4年生の次の節目のステップに中学2年生として、小中学校9年間での教育を行っている照葉小中学校への提言も行いました。

⇒小学4年生は社会に意識が向く時期と合致していて、ピッタリの学年でありました。興味関心の深まりを今回の授業を通して強く感じることができました。

「なぜ中学2年生か」。

さらに社会に向く意識が広がって、社会との関わりにはっきりと気づき始める時期。自分自身がどう関わったら良いのか、中学2年生の時にワークショップを行う意義はあると考えます。

<4年生の先生から>

- ・どういう人がいるのか。自分もその中を知ることができました。
学校だけでなく、清掃や家庭においてもUDの活動が続いています。子どもが考える未来を描くことができました。
- ・いろいろな人がいること。お年寄り、体の不自由な人などを知ることができました。
10月の展示会社会見学ではいろんな企業の人工夫していることも知ることができました。
「先生、新しいUD見つけたよ」と、今でも継続的に子どもたちから新しい発見や提案がなされています。未来に続く活動につながっています。
- ・「気づき」を得ることが良かった。学校の中で体験学習もできました。
車いす体験では、段差のことがわかり、怖いと思ったことなど。「クラスにいる車いすの児童のことを考えると大変」と改めて感じた子どももいた。お母さんもうれしく、車いすの児童にやさしく接するなど、自分で体験・体感することで共感できました。発表会の時には、ひとりひとりが一生懸命に発表しました。これで終わりではなく、これからが大事。見守りたいと思います。

<教頭先生よりお言葉>

- ・4年生に導きをいただき、UDを通して、共に心地良く楽しく暮らせる社会。
子どもたちの基礎基盤づくりができました。
「UDを学ぶ」のではなく、「UDで学ぶ」ことから子どもたちに広げることができました。

ワークショップを全国の地域に

8月から12月にわたって積み重ねてきましたワークショップを終えて、次の課題も見えてきました。わかりやすい教材の開発、授業を行うことができるスタッフを全国に増や

していくことなどです。

今回のワークショップをさらに深め、全国の地域にも増やしていきたいと考えています。今後とも協議会各社、みなさまのお力添えをいただき、さらに力強く進めてまいりたいと思います。「ありがとうございます。」(了)



IAUD アワード 2012 受賞紹介⑤ コミュニケーションデザイン部門 金賞受賞： 「ゲーム機等を応用した情報保障スタイルの推進」

「IAUD アワード 2012」受賞紹介の 5 回目は、コミュニケーションデザイン部門金賞を受賞した森直之様の「ゲーム機等を応用した情報保障スタイルの推進」です。審査委員長のロジャー・コールマン英国王立芸術大学院名誉教授は、「音声情報や字幕、教育情報のテキスト翻訳や写本を送信するこのソフトウェアシステムは、よくあるコンパクトな通信機器を利用することで、企業や機関、娯楽の場で字幕や支援情報の提供を促し、聴覚に障害のある人だけでなく、全ての人にとって利益となるでしょう」と高く評価しました。この取り組みを、森様にご紹介していただきます。

ゲーム機や携帯電話が音声情報を伝える機器に

聴覚に障がいがある場合、音声情報を受け取ることが困難になります。特に手話を活用できない環境下にある場合には、受け取る事ができる情報が極端に少なくなります。そのため、音声を文字化し、内容を伝える「情報保障」という活動・枠組みを活用し、情報を得る事ができます。この活動を「ノートテイク」や「要約筆記」と呼ぶこともあります。

身近な場所では、学校で授業を受ける際、障がいのある学生へ授業内容をノートに書いて伝えたり、パソコンを使って文章化し、提示する方法を用いています。また、全国身体障害者スポーツ大会や式典など、プロジェクターをつかって提供される事もあります。

今回、受賞テーマとなった「ゲーム機等を応用した情報保障スタイルの推進」は、高性能なゲーム機や携帯電話を、音声情報を伝える機器として応用した事例です。当初、一部の学校で試す程度でしたが、現在では多くの場所で利用され、就職や娯楽を支える事もできるツールとなりました。これらの仕組みをつかって文字提供サービスを実施する企業まで出てきました。

今後も、音声情報を必要としている方に活用頂けるシステムを出来るだけ無償で提供し、より住みやすい社会の実現に向けて活動していく所存です。



既存の情報保障の弱点

このシステムが生まれたのは、2006 年です。既に、パソコンと有線 LAN を使って音声情報を文字化するシステムが活用されてい

現状の問題点



専用の受信ソフトが必要。
字幕はパソコン以外
受信できない。
(有線LAN推奨ソフト)



高価

パソコンは高価で、
維持費も高い

移動が不便

機材を持つての移動は
不便で配線も煩わしい

目立つ

機材の多さから
周囲の目線が気になる

電源制約

パソコンのバッテリーは
比較的短時間で切れる

ましたが、文字を見るにはパソコンが必須でした。パソコンは高価で重く、ウイルス対策等のランニングコストがかかります。また、有線が故に移動が困難で、振り返ると死角が出来るなど、利用者にとって「使いにくさ」が生じます。

身の回りにあるものを使う

そこで、近年のゲーム機や電話機に「ブラウザ」が内蔵されている部分に着目し、情報保障システムの情報を HTML へリアルタイム変換するシステムを開発し、無料で配布・展開しました。

リアルタイム変換されたデータは、ウェブサーバ機能によって配信されるため、Wi-Fi などに接続されたブラウザから閲覧することが可能となりました。

現在、ソニー・コンピュータエンタテインメントの PSP® (PlayStation®Portable) をはじめ、Apple 社の iPhone®などの端末に表示できます。ブラウザ機能を利用するため、追加のゲーム機ソフトウェアなどは必要ありません。また、リアルタイム変換 PC がインターネットに接続されていれば、世界に向けた字幕配信が可能になります。



「安い、軽い、壊れにくい、長く使える」ゲーム機

ゲーム機は、「遊ぶ」ための機器であるため、遊ぶ人が不快と感じる状況を作らないための仕掛け、仕組みがたくさんあります。ポイントは「安い、軽い、壊れにくい、長く使える」ということ。入手しやすく壊れにくい事は、機動性を確保する上で重要なことでした。

また、機器がうまく動かなくなった場合、電源の入れなおしや、工場出荷状態に戻すリセット機能など、ゲーム機ならではの「現場トラブルに強い」機能も備えています。

子供が「自ら触ってみよう」と率先して字幕を活用する事例も報告されており、字幕表示端末がゲーム機であるが故のメリットを享受できる事が実証されています。

なぜ、ゲーム機を選んだか

低価格

民生用機材のため、安価で非稟議購入が可能なケースも、自宅で眠っているケースも多く、実践しやすい。

機動性

軽量(約200g)、小型、目立たず、落としても壊れにくい。パソコンに比べ長時間持っただけでも疲れにくいメリットがある。

省電力

電源が長く持つ。(3時間~4時間程度。)市販の充電パックなどでの電源補給も可能。

これまでの活用実績



このシステムが最初に活躍したのは、学校の朝礼です。朝礼で情報を受ける場合、LAN 配線、情報保障担当者、配線の配置都合から、学年の列を離れ特定の位置で情報を受けるケースが多くあります。この場合、クラスメイトから離れることや、通訳者(大人)が近くに居る事によって、利用者の負担になるケースがあります。この時に、ゲーム機が活躍します。

無線 LAN を使い、クラスメイトが居る列で字幕を受け、移動時

にはポケットにしまうスタイルで、今までの課題をクリアしました。電源が4時間以上持つことや、200g以下の重量も使いやすさのポイントです。

東京宝塚公演劇場でも活躍しています。歌劇はセリフや歌が多いですが、劇場内の音が反響して補聴器などでは聞き取りづらいなどの問題があり、演劇を楽しむことが難しい方も多くいます。

そこで、支援者があらかじめセリフを打ち込んだ字幕原稿を作成し、観客席にある端末に字幕がリアルタイム送信されることで、演劇を楽しむ事ができるようになりました。利用者、支援者、劇場関係者が共に協力し、実現した事例です。



企業内研修でも聴覚に障がいのある社員が居る場合、研修内容が正しく伝わらないと、業務成果が上がらなかつたり、離職率が増加するなどの問題が生じます。

ソニー・太陽（株）では、いち早く研修にこのシステムを取り入れ、「平成20年度障害者雇用職場改善好事例優秀賞」を受賞しました。現在では、ソニーグループ全体で活用しています。

公的派遣でも活用実績があります。

大阪府では、2008年より公的派遣制度でもPSP®(PlayStation®Portable)等を用いた情報保障を実施しています。移動が楽で死角が少なくできるため、講演会をはじめ、会議などの場でも活用されています。

現在では、このシステムを活用する自治体・団体も増加傾向にあります。



もちろん、IAUDでも活躍しており、「2007年度IAUD成果報告会」で、本システムが利用されました。

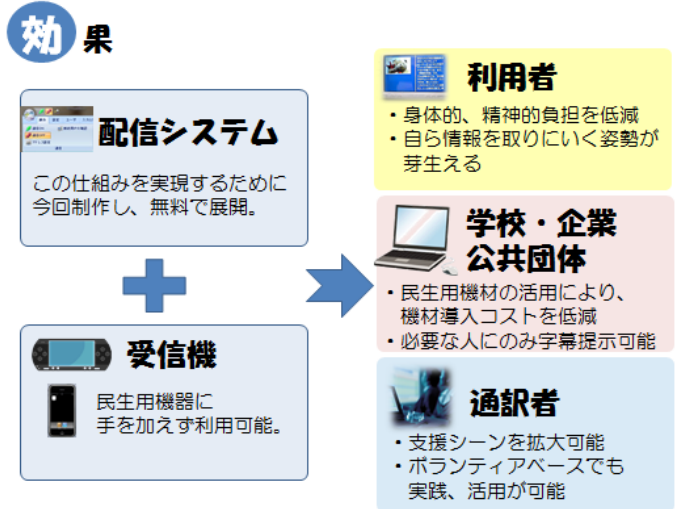
会場の外で受付をする場合や、ディスカッション時に投影スクリーンに背を向けるときなどに文字情報を受信できます。

特に、「会場から漏れてくる（健聴者なら聞こえる）音」が聞こえず、会場の音声情報を得る事が困難という課題に対し、無線を利用した字幕配信システムの活用で、情報の受け取りを可能にしました。

幅広いシチュエーションをカバー

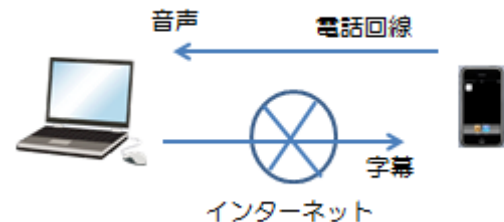
汎用的なシステムや規格を用い、構築したシステムを無料公開した結果、公的派遣から企業・ボランティア通訳者に至るまで、幅広いシチュエーションをカバーできるようになりました。

特に、機器購入予算の確保が厳しい学校においても低価格でシステム構築できるようになった事で、より利用者に使いやすい形で字幕を提供することが可能になりました。



配信システムを応用した「モバイル型遠隔情報保障システム」

現在では、本システムと、携帯電話とインターネットを併用した「遠隔地からの文字提供」を、筑波技術大学をはじめとする複数の大学や、NPO、企業などが実施しています。これにより現地に入力者が出向かなくても字幕提供が出来るようになりました。



社会全体で共有できる物に

本表彰において審査員の方より、「手に持てるデバイスと HTML を活用しており、エンタテインメントや会議など様々な場所での利用価値があり、シンプルだがソリューションとしてはとても有効な物である」とのコメントを頂きました。

現代においては Twitter™ のようなソーシャルネットワークが生活に根付き、障がいの有無に関わらず文字情報が身近な物となりました。今回のシステムもより汎用的で国際的な通信手段・プロトコルを活用して、誰もが活用できる仕組みを目指しています。今後はよりオープンな物を目指し、社会全体で共有できる物に発展させたいと考えています。今回、本活動に関して個人名で表彰を頂きましたが、数多くの個人、団体、企業の皆様にご協力を賜り、受賞に至りました。まさに、この活動に携わった方全員が頂いた賞です。

この活動の中で開発したソフトウェア ITBC2 は、以下のウェブサイトは無償配布しています。

<http://www2.wbs.ne.jp/~condle/>

より多くの団体、自治体、企業で活用頂きたいと思います。今後ともご支援賜りたく、よろしくお願い致します。(了)

※「IAUD アワード 2012」に関しては以下のサイトもご覧ください↓

<http://www.iaud.net/dayori-f/archives/1212/14-100000.php>

2012年度 IAUD 成果報告会&定例セミナーのご案内

2012年度研究部会・委員会活動の締めくくりとして、会員の皆様を対象とした「2012年度 IAUD 成果報告会」を3月26日(火)13時より、富士通トラステッド・クラウド・スクエア セミナールーム(東京・浜松町)で開催いたします。

また、同時に各省庁や自治体関係者を講師にお迎えし、UDに関する政策や課題などについてお話いただく「定例セミナー」も開催いたします。今回は内閣官房行政改革推進本部事務局内閣官房行政改革推進室参事官／元財務省理財局国庫課の渡部晶氏(右写真)を講師にお迎えいたします。皆様のご参加を心よりお待ちしております。



参加ご希望の方及び詳細はこちらをご覧ください。

<http://www.iaud.net/event/archives/1301/31-000000.php>



第2回 UD 検定・初級 講習会&検定試験 実施のご案内

UDの更なる普及と実現をめざす一環として、IAUDが昨年よりスタートさせた「UD検定」の2回目となる「第2回 UD 検定・初級 講習会&検定試験」を、3月26日(火)9時より富士通トラステッド・クラウド・スクエア セミナールーム(東京都港区)で実施します。

今回も UDに関する基本的な知識を学習する講習会(2時間)と UD 検定初級試験(1時間・50問)のセット形式です。その場で学習でき、事前の準備が不要ですので、UDに興味のある一般生活者も気軽に参加できます。

また、合格者には、「UD 検定初級資格証」が発行されます。

皆さまのご参加をお待ちしております。



第1回 UD 検定 初級 講習会&検定試験(福岡市)

検定の詳細または参加ご希望の方は、以下のサイトをご覧ください。

<http://www.iaud.net/event/archives/1301/25-134441.php>



スペイン UD 通信

5. 自転車



バルセロナ市内のここ数年の大きな変化は、自転車利用者の急増です。環境保護や都市での渋滞や騒音、大気汚染の緩和を目指すために、市では市民の自転車使用を奨励しています。

市内のほとんど幹線道路には自転車用道路が整備されています。車道と歩道から分離されているので、自転車でも安心して走ることができます。

自転車は電車や地下鉄の車両にもそのまま持ち込むことができます。自宅から駅まで自転車→自転車を持ち込み乗車→降車してから目的地まで自転車、という移動は日常的です。

持ち込んだ自転車は跳ね上げ式椅子があるスペースに設置します。このスペースは他にもベビーカーや車椅子利用者、スーツケースなどを持った乗客も利用しています。



観光客も自転車を利用した観光客も多く見られます。市内には、レンタサイクル店が多くあるほか、ホテルやゲストハウスでも自転車の貸し出しをしています。

さらに、レンタサイクル利用の観光客を対象とした、サグラダファミリアや教会など観光名所を巡るツアーも人気があります。

市内で多くみかける赤い自転車は、バルセロナ市が2007年3月から開始した安価で自転車を提供するプログラム「Bicing」です。登録者は街中のステーション(右写真)にある自転車を1年中24時間いつでも利用できます。



「Bicing」の HP から登録すると、自宅に IC カードが届きます。自転車を使用する際、ステーションにあるカード読み取り機（右写真）に IC カードをかざすと、「2 番から自転車を取れ」という指示が表示され、使用可能な自転車のロックが解除されて利用できます。使用後は市内にあるどのステーションにも返却できます。現在、市内には 420 のステーションがあり、6000 台の自転車が利用可能です。ステーションへの自転車の補充回収等も定期的に行われています。（下写真）



料金は 1 年間で 45.1 ユーロ（約 5600 円）。初めの 30 分間は無料で、その後は 1 時間ごとに 4.3 ユーロの延長料金が発生します。また、返却後 10 分後に再度無料で利用可能です。2012 年 12 月時点の登録者は約 11 万人。盗難の心配やメンテナンスの必要もなく、安く自転車を利用できるので、通勤通学など多くの市民に利用されています。（了）

次号は 2 月下旬発行予定

特集：手話用語 SWG 医療機器における手話コミュニケーション講演会開催報告（予定）
無断転載禁止

IAUD 情報交流センター（IAUD サロン）：
〒104-0032 東京都中央区八丁堀 2-25-9 トヨタ八丁堀ビル 4 階
電話：03-5541-5846 FAX：03-5541-5847 e-mail：salon@iaud.net